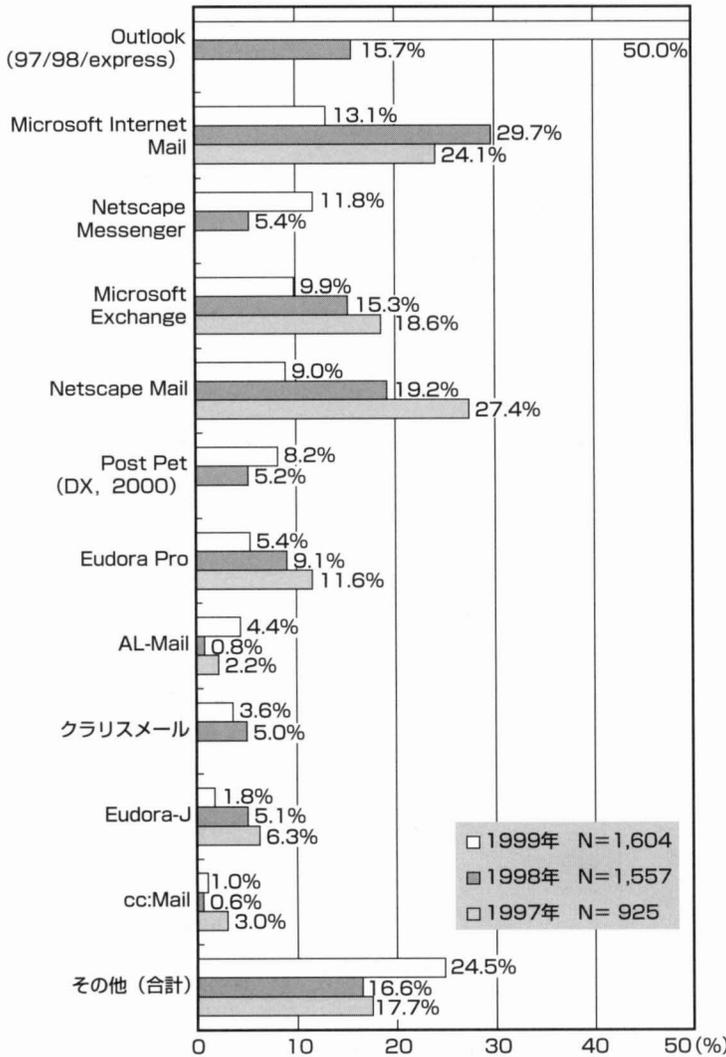


第2章 個人

メールの利用

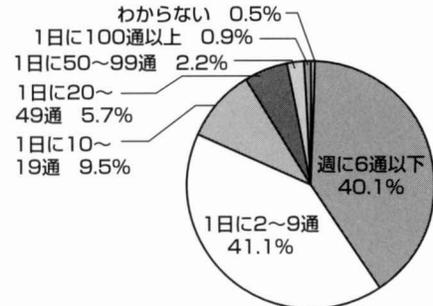
Outlookが急伸

資料1-2-7 利用メールソフト(1997年-1999年)



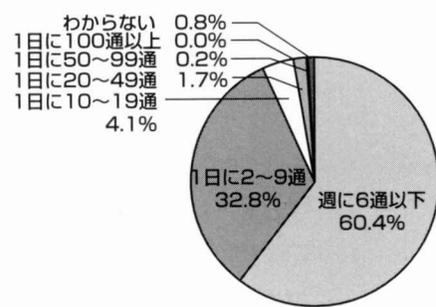
インターネット白書'99 ©インプレス, Access Media International&IAJ, 1999

資料1-2-8 受信メール数 N=1,481



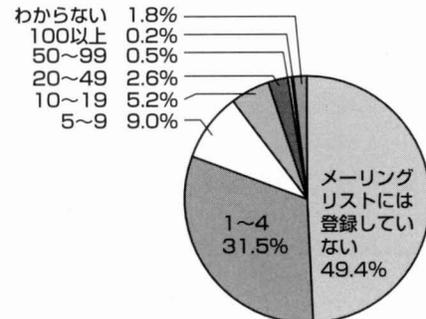
インターネット白書'99 ©インプレス, Access Media International&IAJ, 1999

資料1-2-9 送信メール数 N=1,481



インターネット白書'99 ©インプレス, Access Media International&IAJ, 1999

資料1-2-10 登録メーリングリスト数 N=1,481



インターネット白書'99 ©インプレス, Access Media International&IAJ, 1999

解説

先に見たように、個人利用者にとって電子メールはインターネット利用の最も重要な用途であるが、今年の調査では初めてメール利用の詳細についても掘り下げて質問している。

利用されているメールソフトはこの1年で急激に変化を遂げている。全体の中で大きな比率を占めるのは、OSやブラウザ、オフィス製品などに付属しているメールソフトであり、MicrosoftとNetscapeが市場を二分している。Microsoft製品では「Exchange」や「Internet Mail」から「Outlook」への移行が、また Netscape製品では「Netscape Mail」から「Netscape Messenger」への移行が特徴的

である。特に「Outlook Express」を含む「Outlook」は全体の50.0%（複数回答）を占めるほど急速に拡大している。

メールソフト自体の基本機能では大きな差別化はできないが、「PostPet」のような付加価値を持たせた、特色のあるメールソフトも1つのジャンルを確立して利用層を拡大しており、「PostPet」自体の利用も昨年の5.2%から1998年は8.2%と伸びている。この影響もあり一人当たりの利用メールソフトの数も1998年の1.1本から1999年は1.4本に増加させている。

メールの利用状況を見ると、受信メール数は1日9通以下の合計が全体の約8割を占める。

一方、送信メール数は受信より少なく、「週に6通以下」(60.4%)となっている。

メーリングリストは、全体の約半数(49.4%)は登録していないが、48.9%が登録している。またその登録リスト数は「1~4」という回答が登録者の6割(全体の31.4%)となっている。

先の受信数が送信数を上回るの、メーリングリストの登録率が約半数であることを考慮すれば、妥当な結果であるといえる。



[インターネット白書 ARCHIVES] ご利用上の注意

このファイルは、株式会社インプレスR&Dが1996年～2012年までに発行したインターネットの年鑑『インターネット白書』の誌面をPDF化し、「インターネット白書 ARCHIVES」として以下のウェブサイトで公開しているものです。

<http://IWParchives.jp/>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、データ、URL、名称など)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真・図の作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は掲載されていない場合があります。
- このファイルの内容を改変したり、商用目的として再利用したりすることはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用される際は、出典として媒体名および年号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレスR&D)などの情報をご明記ください。
- オリジナルの発行時点では、株式会社インプレスR&D(初期は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めました。すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接および間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

お問い合わせ先

株式会社インプレス R&D

✉ iwp-info@impress.co.jp